

# 挑む 医

第1部 寿都から



診察時間の長さ  
いわずに「3分  
間診療」を防ぐため、2  
008年度の診療報酬改  
定で医師のアドバイス料  
としての「外来管理加算」  
(520円)が設定され、  
診察や説明に「最低でも  
5分」という目安が設け  
られた。同年の調査で、  
96%の病院がこれに従  
い、平均診察時間は7・  
3分だった。ただ、医療  
界から「短くても診療で  
きる」「診られる患者数  
が減る」と反発も相次ぎ、  
10年度の改定で加算措置  
は撤廃された。

帰りたい」と繰り返し、心にも寄り添うの  
ていた仲井さん。所長が家庭医。「寿都に家  
の中川貴史さん(34)が 庭医療を根付かせた

## ③ 生みの苦しみ

1月末、79歳の元住  
職仲井孝順さんが、後  
志管内寿都町内の自宅  
で静かに息を引き取っ  
た。末期がんだった。  
町立寿都診療所のベ  
ッドで、何度も「家に

家族に、「心まで弱く  
ならないように、家に  
帰りませんか。往診は  
いつでもしますよ」と  
声を掛け、実現した穏  
やかな最期だった。

い」という初志を忘れ  
ず、中川さんは一人一  
人の患者に接する。

## 一歩ずつ地域に浸透

2004年9月、片一(室蘭)に医師の派  
岡春雄町長(61)らが北  
海道家庭医療学センタ  
っ先に手を挙げた。  
な教育を受けた。

「家庭医を育てるセ  
ンターに入り、専門的  
な教育を受けた。

「家庭医は心臓や目  
だけを治す臓器の専門  
医ではない」と役場に苦  
情を言われた。

「10年は、  
このマチに  
いる」。中  
川さんは、  
そう決めて  
いる。



「具合はどうですか?」  
入院患者に声を掛ける中  
川さん。住民に思いが伝  
わらず、苦しい時期もあ  
った

「大病院から離れて  
いる寿都だからこそ、  
家庭医の独自性を発揮  
できる」と思った。28  
歳の新米医師だった。

室蘭生まれ。「人間  
を診る医療がやりたい  
」と北大医学部を出

しかし、内科や外科  
など細分化された医療  
に慣れた住民に、若い  
医師の思いは簡単には  
伝わらなかった。

### 「違った」現実

「家庭医はきつと地  
域に受け入れられるは  
ずだ、という確信を持  
って来たが、現実は大  
違った。それでも、諦  
めなかった。

住民の病や死を一つ  
一つ乗り越えながら、  
家庭医の意味は浸透し  
つつある。長い診察時

「心臓が痛いよ。  
検査はしたくないか  
めなかった。

07年から保健師とと  
もに健康講座を次々企  
画。町主催も合わせて  
年30回近く開く。講座  
の医者は若くて注射も  
できない」と役場に苦  
情を言われた。

「10年は、  
このマチに  
いる」。中  
川さんは、  
そう決めて  
いる。

連載へのご感想をお寄せください。  
▶Eメール iryou@hokkaido-np.co.jp  
▶ファクス 011・210・5592